

全国学力・学習状況調査の結果及び分析・方策について 令和5年度

全国学力・学習状況調査は、3年生を対象に、学習指導要領で国が求めている学力の達成度と、学習への取組や生活習慣、学習環境などの状況について調査するためものです。今年度は修学旅行前日の4月18日の火曜日に、国語、数学、英語について実施しました。

国では、この調査で測定できるのは学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面にすぎないと説明していますが、結果を参考にしながら学びの質を向上させていきたいと思っております。

正答率%	国語	数学	英語
本校	68	48	39
鳥取県	69	50	42
全国	69.8	51.0	45.6
全国との比較	-1.8	-3	-6.6

※学校・県は小数を四捨五入して
整数値のみ公表

【1 教科に関する調査をうけて】

右上の表のように、全体の正答率では国語、数学が県平均や全国平均より少し低く、英語が県平均より少し、全国平均よりかなり低いという結果でした。

<国語>

領域別にみると「知識・技能」の「我が国の言語文化に関する事項」が高いです。中学1年生の時から歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことや、現代語訳を活用して古文を読むことに丁寧に取り組んできた結果といえると思っております。一方で「思考・判断・表現」については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべてにおいて県と全国よりも低い結果となっています。中でも、情報と情報の関係を理解したり、インタビューの内容を整理したりする質問で、県・全国と大きな差がついています。日々の授業の中で他者と関わり、考えを深める活動を意識してきたものの、問いのようなインタビューの実践経験が少ないことなどが原因だと思います。また、自分の考えを書くことや比較して書くことの問題での無解答率が高いことにも対策が必要だと考えています。「書くこと」の取り組みは単元の中に必ず入れるようにしていますが、定着に至っていないという結果になってしまいました。質問紙では、「国語の勉強は好きだ」、「どちらかといえば好きだ」と答える生徒の割合は62.1%であり、その割合は鳥取県と比べて少し低く、全国と比べると少し高かったです。また、国語の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと感じている生徒の割合は86.9%で鳥取県や全国に比べて少し低い結果となっていました。全国と比べて、学ぶ意義や意味を感じられていない生徒が少し多いこともわかりました。

教科	分類		区分	平均正答率(%)	
				本校	全国(公立)
国語	学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	67.8	67.5
			(2) 情報の扱い方に関する事項	62.2	63.4
			(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.8	74.7
		思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	76.8	82.2
			B 書くこと	59.6	63.2
			C 読むこと	60.4	63.7
	評価の観点		知識・技能	71.3	69.4
			思考・判断・表現	65.7	69.7
			主体的に学習に取り組む態度		
	問題形式		選択式	68.6	73.1
短答式			70.0	65.6	
記述式			66.7	68.0	

<教科に関する質問紙の結果>

【国語】

肯定的回答が全国平均をかなり上回った項目 なし

肯定的回答が全国平均をかなり下回った項目

▲自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか。

そこで、ディスカッションやインタビュー、スピーチなど実際に日常生活の中でも起こりうる場面を授業の中で設定し、経験を通して力をつけていく授業づくりを目指していこうと考えています。「書くこと」については、引き続き授業の中で文章を作成する場面を設け、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書けるように徹底していきたいと思いをします。資料の読み取り、必要な情報の整理など自分の考えを書くまでの道のりも大切にしていきたいと思いをします。そして、国語を学習する意義を感じられていない生徒もある程度いることから、今後もより一層、国語を学ぶことの重要性や学ぶ目的を明確にした授業を行っていきます。

<数 学>

評価の観点別では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の両方で、鳥取県や全国よりも2ポイントから4ポイント低くなっていました。領域別にみると、「数と式」や「図形」、「関数」では鳥取県や全国よりも低い正答率でしたが、データの活用については鳥取

教科	分類	区分	平均正答率(%)	
			貴校	全国(公立)
数 学	学習指導要領の領域	A 数と式	58.1	63.0
		B 図形	29.2	33.2
		C 関数	45.3	51.2
		D データの活用	51.6	48.5
	評価の観点	知識・技能	52.7	55.7
		思考・判断・表現	37.4	41.6
		主体的に学習に取り組む態度		
	問題形式	選択式	40.9	45.3
		短答式	60.6	62.6
		記述式	37.4	41.6

県、全国の平均よりも高い正答率を示していました。「関数」の分野においては、全国平均に比べて、5.9ポイント低い結果となっており、具体的な問題としては、グラフを関数として捉えること、関数を活用して具体的な数値を求めることの定着が十分でないことがわかりました。質問紙では、「数学の勉強は好きだ」、「どちらかといえば好きだ」と答える生徒の割合は1/3程度であり、その割合は鳥取県や全国に比べてかなり低い結果でした。また、「数学の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと感じている」生徒の割合も、鳥取県や全国に比べて低い結果で、日々の生活、授業の中で、数学の必要性や学ぶ意味・意義が感じられていないことがわかります。

質問紙の結果より、数学の必要性や学ぶ意味・意義が感じられていない生徒が多いことから、日々の授業や単元の導入時において、数学と生活との関わりを具体的に示しながら、かつ、それによってどのような力

<教科に関する質問紙の結果>

【数学】

肯定的回答が全国平均をかなり上回った項目 なし

肯定的回答が全国平均をかなり下回った項目

- ▲数学がすきである。 ▲数学の授業はよくわかる。
- ▲数学の授業で学習したことは、将来、社会の役に立つと思う。

がつくのかを生徒に伝えていきたいと思いをします。また、多くの領域で鳥取県や全国平均より低い結果のため、1、2年時の復習内容を取り入れながら授業を行っていこうと考えています。そして、数学的な技能面だけでなく、数量や図形についての考え方をつけることができるような授業を心がけ、それらを活用したり、それらをもとに説明し合ったりする場面を設定し、自分の言葉で伝える力を向上させていきたいと考えています。さらには、数学の勉強が好きな生徒を増やすため、「分かる・できる」授業づくりや、数学のおもしろさを伝えていく授業を目指していきます。

<英 語>

観点別ごとの結果では「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに5%以上低く、領域別では各領域ともに6%前後低い結果でした。質問紙では、「英語の勉強は好きだ」、「どちらかといえば好きだ」と答える生徒の割合は53.2%で、その割合は鳥取県や全国と比べてほぼ差がありませんでした。また、「英語の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと感じている」生徒の割合も鳥取県や全国と比べてほぼ同程度の87.6%で、英語を学ぶことの大切さや必要性については理解しているが、それがうまく英語の力に結びついていないということがわかりました。

英語の必要性については理解している生徒が多いので、今後も英語への興味・関心を高めていけるような授業内容の工夫を続けていくとともに、知識・技能については十分な定着ができてないことを踏まえ、毎時間の授業の中で繰り返し基本的な表現や語彙の定着を図るための活動を継続して行っていきたいと思

います。また、まとまった量の英文を読んだり、自分の考えや状況を説明する英文を書いたり、述べたりする活動をさらに組み入れて、英語を使う場面を増やしていきます。

教科	分類	区分	平均正答率(%)	
			貴校	全国(公立)
英語	学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	52.2	58.4
		(2) 読むこと	43.1	51.2
		(3) 話すこと [やり取り]		
		(4) 話すこと [発表]		
		(5) 書くこと	17.1	23.4
	評価の観点	知識・技能	42.9	51.5
		思考・判断・表現	33.9	38.8
		主体的に学習に取り組む態度		
	問題形式	選択式	47.6	54.8
		短答式	21.9	30.1
記述式		9.9	13.5	

<教科に関する質問紙の結果>

【英語】

肯定的回答が全国平均をかなり上回った項目

- 英語を読んで概要や要点をとらえる活動が行われている。
- 原稿などの準備をすることなく、自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われている。
- スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われている。
- 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べたりする活動が行われている。
- 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われている。

肯定的回答が全国平均をかなり下回った項目

- ▲将来、積極的に英語を使うような生活をしたりしたいと思う。

【2 学習への取組や学習環境などに関する調査をうけて】

この調査は質問紙によって、学校や家庭での生活や学習の状況を尋ねたものです。これまでの調査から、学力と生活環境は関係が深いと言われています。県や全国に比べて、本校の3年生は以下の特徴が見られます。

【望ましい傾向の項目】(肯定的回答が、全国平均より多い。◎は特に多い。)

- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 ○毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれている。 ○困りごとや不安があれば学校の先生などに相談できる。
- 学校の授業以外での読書時間が平日30分以上である。
- 昼休み、放課後、学校が休みの日に、学校や地域の図書館に1週間1～3回以上行く。
- 新聞を読んでいる。 ○読書が好きである。

- ◎学校の部活動に参加している。 ◎住んでいる地域の行事に参加している。
- 総合的な学習の時間に課題を立て情報を集め整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法をきめている。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことをきめて取り組んでいる。

【課題があると思われる傾向の項目】

(肯定的回答が、全国平均より少ない。▲は特に少ない)

- △自分には良いところがある。 △将来の夢や目標を持っていますか。
- △普段の生活で幸せな気持ちになることがある。 ▲家で計画を立てて勉強をしている。
- ▲家庭学習等の時間（平日1時間以上、休日2時間以上の割合）
- △地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- ▲外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい。
- △授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
- △授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- △授業では各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。
- △道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

今回の調査での最も大きな課題は家庭学習の時間の少なさでした。平日1時間以上勉強している生徒の割合が全国平均と比較して17%少なく、休日2時間以上勉強している生徒の割合も10%少なくなっています。当然この家庭学習時間の少なさが正答率にも影響していると考えられ、それが自己肯定感（自分には良いところがある）の低さ、将来の夢のなさにもつながっているのではないかと考えられます。そこでまずは、3年生において進路学習の取組を進めながら、家庭で学習する意義についても繰り返し指導していきたいと思います。さらに、日常の授業を充実させるためにも、協同学習の理念（クラス全員で協力して、みんなが勉強をわかるようになろう）に基づいた授業づくりをさらに徹底させ、生徒たちが「分かった」「できた」と感じる場面を増やし、家庭でも学習したいと思えるような授業にしていきたいと考えています。

また、今回の3年生の春の調査結果は、これまでの中学校2年間の積み重ねの結果であると考えられますので、現在の1年生、2年生のためにも、家庭学習の時間の増加、そして学習の充実につながる宿題の出し方、生徒への啓発方法を今後も研究していきます。

ただ、これらの対応はあくまでも全体での取組で、生徒個々の課題、弱点は1人ひとり違っています。そこで、当たり前のことではありますが、今後も個に応じたきめ細やかな指導を継続し、生徒1人ひとりの課題と向き合っていきたいと思います。